

三好中学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①「主体的に学習する力を伸ばす板書・ノート指導の充実」
- ②「学校と家庭との役割分担による家庭学習習慣の確立」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	尾関 英知(校長)	十川 道雄(教頭)
		大瀧 京子(1学年主任)	
		西尾 美佳(2学年主任)	
		久保美智子(3学年主任)	
		中川 浩幸(学力向上推進員)	

校長 尾関 英知 印

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 授業への取り組みは全体的に前向きである。決められたことはきちんと果たすことができる。	①国・数・社・理・英の5教科における基礎的・基本的な知識や技能を身につける。 ②授業に真剣に取り組む、わからないことは教師や友達に質問する習慣を身につける。	全国学力状況調査・県学力ステップアップテストにおいて、すべての項目での正答率が県平均以上になる。			
課題 一部の生徒は基礎的・基本的な知識や技能の習得に支援を要する。2・3年生ともに、ステップアップテストの数学において、県平均を下回っている項目がある。家庭学習の習慣が身につけていない。	具体的方策(教員の取組) ①板書やノート指導を徹底し、言語に関する知識・技能を身につけさせる。 ②学年の実態に応じて自主勉強・問題集・プリントなど異なる種類の課題を毎日出し、総合的な学力の育成を図る。	取組指標 ①単元ごとにノートの点検・及び学習カードの確認を実施。 ②全員の提出を毎日確認し、必要に応じて個別指導を行う。		評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 協働学習において、課題解決に向けて主体的・対話的で深い学びを実践し、思考を深めることができる。	・各教科の学習の中で、根拠や理由を明確にし、自分の考えをまとめ、自分の言葉で相手に伝えることができる。 ・友達の発表を、思いをくみ取りながら最後まで聞くことができる。	「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答える生徒を70%以上にする。			
課題 友達の前で自分の考えや意見を発表することや正しい文章・正確な漢字または単語を使って表現することが苦手な生徒が多い。	具体的方策(教員の取組) ①授業の中で、生徒が予想、考察、発表する場をより多く設定する。また、朝学習に英語リスニングを導入する。 ②ホワイトボードを活用し、個々の生徒が考えをまとめたり、表現をしやすい場面設定を工夫する。	取組指標 ①生徒が自分の考えを発表できる機会を授業中に必ず設定する。 ②学年・教科・全体での授業研究会を学期に1回設定する。		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 落ち着いたある態度で学習に取り組み、工夫を凝らしながら主体的に学習に取り組むことができる生徒が多い。	自主的に問題を解決する能力や、家庭学習に継続して取り組める根気強さ・集中力を身につける。	各生徒の「自主勉」・「清明ノート」(一日十行日記)の提出率を100%にする。			
課題 困難に直面したときに、あきらめが早く、自分で解決しようとする意欲が乏しい。	具体的方策(教員の取組) ①生徒が主体的に課題を解決する学習場を各教科の授業で、計画的・継続的に設定する。 ②生徒がわからないことを質問しやすい環境作りを工夫する。	取組指標 ①授業中の机間巡視などで生徒との距離を短くし、質問しやすい状況をつくる。 ②学年便り・学級便り等に学習コーナーを設け、生徒・保護者の意識の高揚を図る。		評価	次年度における改善事項

平成31年度 学力向上ロードマップ

